

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502777), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (認知症対応型共同生活介護 グループホームまいホーム川下 2階), 所在地 (札幌市白石区川下574番地61), 自己評価作成日 (令和5年10月15日), 評価結果市町村受理日 (令和5年12月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、周辺に川下公園や八幡宮神社・厚別川があり、住宅街から少し離れた閑静な場所にある為自然豊かで、遠くには山並みが見られ景観も良い場所にあります。また同一法人が運営する病院・デイケア・介護老人保健施設が敷地内にあり、療養寮とも併設しており、医療面や災害時など迅速な対応が出来る。中庭やホーム裏には花畑があり、花壇を楽しんだり、畑作業を楽しんだりしています。今年は何年ぶりに夏祭りも開催されてとても喜ばれていました。献立は、季節の物や誕生日などを取り入れたり入居者様の希望を聞いて作成しています。ここ数年は、感染対策にも重点を置き広げられない様取り組んでいます。入居様・ご家族様には安心して穏やかに生活出来る様心がけてサービスを提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JisyoVoCd=0170502777-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年11月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示されており、ネームプレートにも記載し、いつでも見られるようにしている。理念については、ミーティングの時間を利用し、話し合い実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は難しかったが、今年は地域の夏祭りに参加したり、法人の夏祭りに参加し、交流活動は再開されつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から再開した夏祭り等を通じて、実際に共有して楽しんで頂いたり、運営推進会議で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内会長、包括支援センター職員に来て頂き、勉強会や現状報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議に参加して頂き、地域の状況が良く分かり、お祭りに参加できた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回委員会を実施し、拘束についての意見交換をし、拘束の無いケアに取り組んでいる。参加できなかった職員には、情報提供し共有できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティングにおいて、高齢者虐待防止法について学び、具体的な事例をあげ、意見交換し、ケアを振り返る機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回権利擁護についての資料を用いて勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时等に利用者様、ご家族様の話しをよく聞き、不安、疑問点に対応している。契約時、解約、改定等の際も十分な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族様の意見を聞き、毎月のお便り、写真等でホームの状況を報告してる。又、5月制限がありますが、面会を再開している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階、月に1回のミーティング等で意見交換を行っている。又、それ以外でも、職員の意見を聞くよう心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、その結果を昇給等に反映している。勤務状況では、残業もほとんどなく、休暇も取得しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を踏まえるようにしている。コロナ禍で外部の研修参加は出来なかったが、勉強会は継続していた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流の機会作りが難しくなっている中、同じ共栄会の他のグループホームの職員が手伝いに来てくれ(こちらも手伝いに行った)サービスの維持向上になった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活を送っていただくために利用者様の話しを傾聴し、生活史を尊重、信頼関係を築けるに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも心配事、要望等を聞き信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様との話し合いの時間を設け、どの様な支援が必要なのか明確にし、今後へつながる支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の力を発揮できる場面を作り、その活躍を尊重し、共に過ごし、支えあえる関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への近況報告を行い、面会や電話、又、他科受診や日用品の買い出し等を依頼し、ご本人の様子を直接見て頂く機会としても交流が途切れないように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数での面会は再開し、多くの方が面会に来られ喜ばれている。手紙や電話対応も継続している。デイケアでも、馴染みの職員や他利用者様との交流継続中。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流が円滑に出来るよう、間を取り持つよう支援している。利用者様同士の適切な距離感を見極め、過干渉にはならないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一旦サービスが終了になっても、必要に応じて支援しており、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の気持ちを表現できない方は、気持ちに寄り添い、快適な生活が出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様それぞれの生活史の把握、情報共有は出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や表情、身体の状態等を観察し、記録に残し職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員やご家族様からの情報を得て、利用者様の状態や意向に寄り添い計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも個別記録に記入し情報を共有し、介護計画に生かしている。又、当初の計画から変化が生じた際には、できるだけ早い段階で見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの状態に合わせ、可能な限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類になり、今年から法人主催の夏祭りや町内会の行事に参加できた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に併設されている病院に主治医がおり、定期的を受診し関係を築いている。又、それぞれの疾病に合わせた専門病院に通院できるよう、主治医、ご家族様にも相談し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診以外でも状態の変化に合わせて相談し、速やかに必要な医療機関への受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナが5類となった現在も面会は困難な為、電話にて病院関係者との連携を心掛けて情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化した場合の対応指針を説明し、同意して頂いている。回復の見込みがない場合は入院先の病院と話し合ったり、ご本人、ご家族様の意向を尊重できるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時など利用し、確認している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し意識付けは出来ているが、職員の入れ替えもあり、全職員が非常事態に対応できるように、身に付ける必要がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々、居室で過ごされているときは、プライバシーを確保し個人の人格を尊重し関わりを持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係が作れるよう、日々関わり、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の習慣やペースに合わせた支援を行い、職員の都合を優先しないよう日常的に意識して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に応じて対応している。ご自分で衣類等の選択ができない方には必要に応じて支援している。理美容は月に2回定期的に利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で利用者様と職員で収穫した野菜をメニューに取り入れる等、楽しみに繋げている。好みや栄養バランスに配慮しつつ、季節の食材を取り入れ、会話に繋げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、個々の状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は口腔ケアのし忘れがないか目配りし、支援の必要な方には毎食後に声掛け、介助を行っている。義歯については、夜間に洗浄剤の使用を勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせ、トイレ誘導の時間を工夫する等し、オムツに頼らない工夫をしている。状態が変化した場合は柔軟に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスを考慮し、献立を作っている。水分量も少ないならないよう配慮している。支援が必要な方には共に歩くなどし、運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度スケジュールは組んでいるが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。入浴中はゆっくり、リラックス出来るよう環境を整えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲労時等に声掛けを行い、臥床時間を設け、休息時間を作っている。夜間帯含め、照明や室温、騒音等の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬袋に効能を記載し、薬をセットする時に確認するようにしている。薬の変更時は記録や連絡ノートに記入し情報を共有している。又、その後の経過も注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やコミュニケーションの中からココに合わせた活動や話題提供等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で希望に添うような活動ができなかったが、5類に移行した事で、少しずつ、入居者様の希望に添うよう買い物支援や外出の機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は決まった曜日にお小遣いとしてお渡しし、お小遣いの中で、買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の仲介や手紙の投函等、ご家族やご友人との繋がりを大切に出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の掃除は行き届いており、清潔感があり、日当たりも良い。共有スペースには季節を感じられるようディスプレイの工夫をし入居者様に喜んで頂いている。又、動線を配慮し、事故防止に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由に過ごせるよう、安全、安心に配慮し必要に応じ支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は動線に配慮し事故防止に努めている。又、ご本人の使い慣れた物を使用して頂き、居心地の良い空間作りが出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの特徴に合わせ、場面に添って、ご本人の力を発揮できるよう支援している。		